

わが国戦時の米子市における建物強制疎開と戦後の市街地形成の展開に関する研究

【代表者】 荒木 菜見子 米子工業高等専門学校 総合工学科 助教

【共同研究者】 細田 智久 島根大学 総合理工学部建築デザイン学科 教授

【研究の目的と内容】

わが国戦後の都市空間については、空襲で焦土となった都市において復興都市計画がどのように進められ戦後市街地を形成していったのかという研究が各地で進められている。

特に、戦時に建物強制疎開が行われ空地となった場所が、戦後どのように扱われたのかを検証することは、戦前戦後の都市空間形成を考える上で重要である。また、こうした疎開空地を含む都市内の遊休地において発生した、戦後直後の市場空間に関しても近年研究が進められつつある。そうした戦後直後の市場空間にはさまざまな形態があり得たことが明らかとなっており、中には外地からの引揚者によるものも見られるが、引揚者関連施設の建設においては、生業を支える市場空間だけではなく住宅も当然必要とされた。その土地に対して縁故もなく、ある意味ではピュアな存在である引揚者らに対しての空間が、都市の中にもどのように組み込まれ、存在したのかを明らかにすることは、戦後の都市形成を考える上で必要な検証である。

そこで本研究では、①わが国戦時の米子における建物強制疎開について、指定・実施の経緯と、それらの疎開空地が戦後の市街地形成のなかでどのように扱われたのかを明らかにし、そして、②引揚者関連施設が立地した場所と、具体的な空間について明らかにする。そして、これら強制疎開空地と引揚者関連施設の建設について、その関係性を検証することで、わが国戦前戦後の市街地形成の展開の一端を明らかにすることを目的とする。

戦前戦後の市街地形成についての基本事項は米子市史などの刊行史料や当時の新聞紙面の記事などから把握するが、建物強制疎開の実態については、これまで米子の都市研究において扱われてこなかった、米子市山陰歴史館所蔵の戦時米子における建物強制疎開関連資料一式を基礎資料として用いる。これにより建物強制疎開の実施経緯の把握や、具体的な場所の特定を行い、特定できた場所について、地方法務局で取得可能な登記簿などから土地所有権の推移を確認する。また、これと並行して引揚者関連施設の建設についても調査を進め、具体的には、山陰歴史館所蔵の行政文書や、当時の新聞紙面の記事、国土地理院所蔵の空中写真などから建設の経緯、場所の特定を行う。そして現在でもわずかに遺構が残っている箇所において、聞き取りや実測を含むフィールドワークを行う。以上のように使用する史料や研究手法の観点から、米子の都市研究においては独自性があると言え、これらにより米子における疎開空地と引揚者関連施設の建設の関係を明らかにし、戦前戦後の米子の市街地の形成過程の一端を明らかにしようとするところに独自性がある研究内容である。

【研究の成果（本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等）

【得られた知見、成果】 まず、前項で示した①わが国戦時の米子における建物強制疎開について、指定・実施の経緯と、それらの疎開空地が戦後の市街地形成のなかでどのように扱われたのかについては、米子市発行の『米子市史』（平成20年）や『米子市三十年史』（昭和34年）から、戦中米子における建物強制疎開の実施経緯の概要を捉え、米子市山陰歴史館が所蔵する史料『建物強制疎開関連資料一式』から、実際の建物強制疎開が米子市の市街地において実行された箇所を確認した。それらのことから、今年度は、疎開計画の際に重要建物として指定された建物と、実際に取り壊された建物の相互の立地関係と、さらに戦後の都市建設活動の展開場所について、それらの市街地における分布状況を明らかにし、戦前戦後の米子の都市形成の連続性について考察を行った（図1）。

そして、②引揚者関連施設が立地した場所と、具体的な空間については、まず米子市教育立地計画実態調査委員会発行の『米子市実態調査（第一集）旧市域編』（昭和29年）や『米子市史』から、戦後の住宅供給について、住宅の種別と建設場所、戸数などを抽出し、前述の建物疎開空地との関係性を確認しながら地図上にプロットする作業を行った。そこから引揚者住宅へと焦点を絞り、中でも特に市街地中心部の疎開空地に建設された、マーケットを併設した引揚者住宅に着目して建物空間の把握を行うこととし、今年度は国土地理院空中写真の収集・分析と、現地に残る遺構の外観調査と、当時を知る関係者からの聞き取り調査を行い、その大枠を捉えた。

結果として、山陰の中核都市である米子において、戦中戦後の都市形成を捉えるうえでの大きな事業の一つに建物強制疎開があり、そのことと戦後の住宅供給とが相互に関係していることが見えてきた。そして、戦後住宅供給の中でも特に引揚者住宅兼マーケットの事例の存在が明らかとなり、これは立地、建物空間の双方の面において、戦後米子の都市空間の形成にとって重要な意味を持ったと考えられる。

【学会発表】2022年度の日本建築学会中国支部研究発表会にて発表予定としている。

【外部資金への応募状況】この内容をさらに発展させ、戦中から戦後にかけての米子市の都市形成において、建物強制疎開や引揚者住宅建設を含んだ各種の都市建設に関わる事業が、相互に関係しあいながら都市空間を形成していった過程についての歴史的研究を、研究課題名「わが国戦中戦後の米子における市街地の形成と変容に関する研究」として、令和4年度科学研究費助成（若手研究）に申請し、採択された。

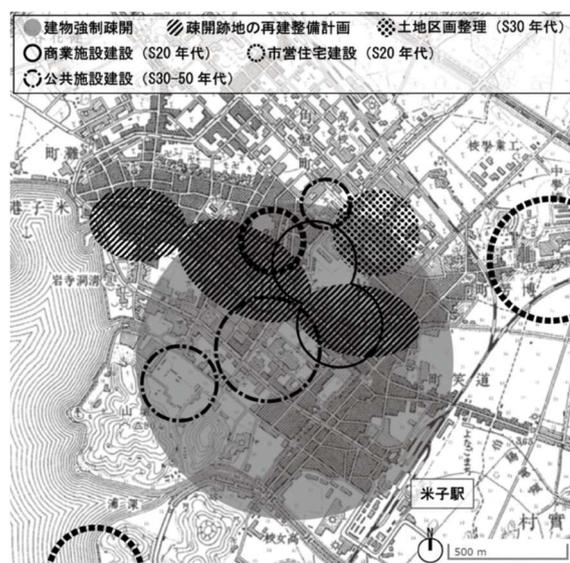


図1 戦中戦後の各種事業実施箇所
(昭和9年市街地図上に作成)